

二十銭でお米と漬物でも買ふたらお前はんと妾と御飯が食べられるやないか」

「偉い、偉い、かほどの智慧がありながら、何故市會議員に選挙せなんだ」

「何を云ふてやね、早う買ふといで」

「へい〜……魚屋はん御免なはれや」

「おいでやす」

「其處にある金魚の親方は何程で」

「金魚の親方……そんな物おまへんで」

「其處におますが、赤い魚」

「これは鯛で」

「それは何程です」

「一圓八十銭だす」

「オ、高、三十銭にまかりまへんか」

「鯛が三十銭でおますかいな」

「そんなら此方にある鰻の親方は」

「何んでも親方だんな、それは鱧はちまだす」

「それ何程だす」

「一圓二十銭で」

「オ、高、三十銭にまかりまへんか」

「あんな無茶ばつかり云ひなはる」

「此方にある虱の親方は」

「それは烏賊いかです」

「これは何程だす」

「二十五銭だす」

「オ、高、三十銭にまかりまへんか」

「二十五銭の物を三十銭に値切る人がおますかいな」

「何んでもまけてもらはんとどむならん、腹がペコ〜で家へ戻つて來たら飯は無いは米が無い、仕方がないよつてに家主へお祝を持つて行つて祝儀おたのめを貰ふて嬬と私が飯を食べようと云ふので、人間二人助けると思ふて何んでも結構だすさかいまけとくれやす」

「面白いお方や、家のアラを皆云ふて仕舞ひなはつた、まけたげまひよう、そこに生貝が三杯おますそれは十二銭と十五銭に賣つてたんですがもう三杯でしまいや、その三杯を三十銭にまけたげます」